

平成 26 年度 千早赤阪村立学校園評価報告書

1. 教育目標

■自立への意欲と自信

- 確かな学力をつける
- 豊かな心を養う
- 健やかな体を育てる

【実践目標】・自分からすすんで学習する力を育てる

・活動にじっくり取り組んで心身を豊かにする

2. 経営方針

- 教育目標の達成に向けた取組みにより、生徒一人一人がいきいきと活動する明るい学校をめざす。
- 生徒による清掃活動や施設の環境整備につとめ、美しい学校をめざす。
- 地域で育つ子どもたちの視点を大切にし、地域に開かれた学校をめざす
- 小規模校の特性を活かし、きめ細かな指導、支援に努め、生徒一人一人をより大切にしたい学校をめざす。

3. 教育自己評価

【教職員による評価】

- 「自分から進んで学習する力」については、学力向上方策の視点の一つに主体性を位置づけ、KGGノート（自主学習ノート）やPUGタイム（放課後自主学習）の取組みをスタートしたことで、教職員の意識向上につながった。今後、子どもたちにとって、より効果的な取組みとなるよう進めていく必要がある。
- 学校行事等を通して、本年度も全教職員によって、細部にわたる生徒の成長場面を念頭に、生徒一人一人がいきいきとする活動の位置づけに努めることができた。
- 地域清掃や棚田イベントへのボランティア参加、部活動の地域行事への参加等で地域とのつながりの充実が充分図られた。
- 学習面や生活面での支援を要する生徒一人一人に対し、できるだけケース会議等を開催して、SC、SSWなどの外部支援者の助言を受け、きめ細かな指導の充実に努めた。今後、より一層、校種間連携などを効果的に活用し、生徒の支援体制の充実をめざす。

【外部アンケート等】

- 本年度、校外を対象にした学校運営に関するアンケートは実施することが出来なかった。
- 生徒を対象とした授業に関するアンケートでは、「興味・関心・意欲の向上」「学習内容の習得」「個の状況に応じた支援」「望ましい学習集団の育成」「生徒への適切な評価」の視点で行い、指導者個別の結果を分析し、今後の指導に役立てることができた。

4. 本年度の重点目標、具体的な取り組み内容、自己評価、次年度に向けての改善策

		つながる	やすらぐ
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科、領域における言語活動の充実 ○小中連携に視点をおいた英語教育の推進 ○道徳教育の充実 ○郷土学習の学習内容の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援教育の充実 ○SC、SSWの効果的な活用 ○食育の系統的カリキュラムの見直し。 ○いじめ対策 ○体罰のない学校
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ①校内研修等の研究授業の視点に言語活動の位置づける。 ②小専加配（英語）を中心に小学校と中学校のシラバスの系統性などについて検討する。 ③英語検定への継続した取り組み ④校内研修における道徳の授業研や学年ごとによる授業実践研究 ⑤教職員の千早赤阪村の歴史を中心としたフィールドワークや郷土に関わる資料づくりの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ①支援学級在籍生徒だけでなく、通常学級において支援を要すると思われる生徒への支援方法の協議 <ul style="list-style-type: none"> ・定期的な連絡会議 ・外部専門講師を招聘しての助言 ②個別ケース会議の継続実施（SC、SSWとの連携） ③教育相談や生活アンケートを活用した早期発見対応。 ④定期的な教職員への啓発及び指導 <ul style="list-style-type: none"> ・体罰に関する服務研修 等
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 明確ではないが、各教科において、発表、話し合いやペアワーク等の位置づけの意識を高めることができた。 ② 小学校での外国語活動の内容を踏まえた上での中学校のカリキュラム作成に努めている。 ③ 継続実施。合格率が向上している。対策問題集の購入。 ④ 実践意識が高揚している。 ⑤ 郷土学習（第2学年）の実施にともない、充実した資料づくりに取り組むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 校内支援教育委員会において、定期的な情報共有及び協議を実施した。大阪大谷大学より、講師を招聘し、指導助言をいただいた。（年間2回） ② SC、SSWと緊密な連携をとった。 ③ 教育相談、生活アンケートを中心に生徒の実態把握に努めた。 ④ 体罰等に関して、新聞報道なども積極的に周知し、啓発及び指導を行った。
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動については、位置づけの明確さを追求し、各教科間での情報共有を進める。 ○英語、道徳は、引き続き研究を深め、効果的な実践をめざす。 ○郷土学習の継続実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○支援を要する生徒について、指導方法等を教職員全員で共有する方策を考える。 ○食育の系統的な取り組みの模索 ○SCの周知拡大及び一層の効果的活用 ○体罰等に関わる服務研修の継続的な実施

（「つながる」「やすらぐ」「のびていく」「各校独自」の4項目について）

		のびていく	各校独自項目
P	重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上（SE）の充実 ○目標に準拠した評価の試行検証 ○読書活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の安全確保
D	具体的な取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ①学力向上の新しい取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習ノート ・定期的な放課後学習システム ・学習支援員の活用 ②授業改善の取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・特に経験の浅い教員の授業オープン研修期間の設定 ③目標に準拠した評価に係る規準と基準や観点別から評定への反映についての継続した内容協議 ④朝読およびホームリーディングの継続実施と読書内容についての吟味 	<ul style="list-style-type: none"> ①熱中症対策 <ul style="list-style-type: none"> ・野外活動での帽子の着用 ・給水時間の確保 ・テントやや緊急時の飲料確保 ②通学路の全教職員による確認 <ul style="list-style-type: none"> ・特に、徒歩、自転車の通学路確認（通学路地図の作成）
C	自己評価／成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ① 自主学習ノート（KGGノート）を実施放課後学習（PUGタイム）の実施週1回 学習支援員を活用し、個別対応が充実した。 ② 校内研修の一環として実施。 ③ 評価については、随時、協議を重ね、共通理解を深めた。 ④ 継続実施。読書内容については、図書委員会やホームリーディングを通じて、周知し、広げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 帽子の着用や給水時間の確保、緊急時の飲料確保等、十分に留意した。 ② 教職員の村内オリエンテーリング研修や地区のクリーンキャンペーンを通じて、通学路等の確認をおこなった。 <p>※地震の避難訓練で、生徒だけでの避難行動や避難通路の選択などを含め、臨機応変な対応についての訓練を実施した。 (防災アドバイザーの活用)</p>
A	次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上関係については、継続実施に努め、より効果的に実施できるよう検討を深めていく。 ○評価については、本格実施になるので、細部にわたったマニュアルを確定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○校区内地図での危険場所等の確認を行える環境を設定する。 ○避難訓練については、より一層、様々なケースを想定した訓練内容にする。

5. 学校関係者評価

- PTAや地域の方々から、学校行事や学習の取組み、地域での生徒の様子などについて、随時、様々な評価をいただいている。
 - ・あいさつは、とても主体的によく頑張っている。
 - ・学校行事全般において、生徒のいきいきした活動が見られる。
 - ・部活動がたいへんよく頑張っており、試合や大会などで好成績を残して素晴らしい。
 - ・通学途中、特に自転車通学者には常に注意が必要。
 - ・金剛バス利用者がバスの時間が学校の時間と合いにくいので、赤阪小の通学バスの利用を考えた方がいいのではないかと懸念がある。
- 専門的な外部支援者（SC、SSW、大学関係者など）からも生徒支援の取組みについて評価をいただいている。
 - ・気になる生徒への情報共有が早い段階でもなされているので、未然防止も含め、個別支援が充実している。
 - ・具体的な支援方策についても教職員全体で確認や共通理解を今後も継続させていくことが必要。
 - ・保護者の支援意識を高める方策の検討が必要。

6. 第三者評価

- 特に「第三者評価委員会」というかたちでの評価はいただいていない。

以上 報告いたします。

千早赤阪村立中学校 校長 安尾 健也 印